

Title	東南アジア研究センター第2年度(昭和39年度)諸計画
Author(s)	
Citation	東南アジア研究 (1964), 1(4): 116-118
Issue Date	1964
URL	http://hdl.handle.net/2433/54876
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

理事 京都大学事務局長 横田 実
 監事 " 庶務部長 住友 眩
 " " 経理部長 西間 木久郎

吉田 光邦 京都大学人文科学研究所助教授
 口羽 益生 龍谷大学文学部講師
 坪内 良博 京都大学大学院文学研究科博士
 課程

**東南アジア研究センター第2年度
 (昭和39年度) 現地調査計画**

I. 社会科学部門

1. ビルマ・タイ地域研究計画

1) タイ村落調査

調査参加者

飯島 茂 京都大学東南アジア研究センター助手

水野 浩一 京都大学東南アジア研究センター研究員

矢野 暢 京都大学大学院法学研究科博士課程

調査項目

- (1) 北部タイの山地民社会の構造(飯島)
- (2) 東北部タイの村落社会の変動(水野)
- (3) 南部タイのマライ系タイ人村落の変化過程(矢野)

調査期間

飯島 茂 1カ年(39年4月1日~40年3月31日)

水野 浩一 1カ年(39年5月11日~40年5月10日)

矢野 暢 1カ年(39年5月11日~40年5月10日)

2) タイ農業技術の改良とその農民層への滲透にかんする研究

調査参加者

本岡 武 京都大学農学部助教授

調査項目

- (1) 農業技術の実態と改良方向についての調査未了の問題
- (2) 改良技術の農民段階への滲透の問題

調査期間

約6カ月(39年10月~40年3月)

2. マレーシア・インドネシア地域研究計画

—マラヤにおけるマライ人社会の総合研究

調査参加者

棚瀬 襄爾 京都大学文学部助教授

調査項目

- (1) マライ人社会の史的背景
- (2) 経済的基盤
- (3) 家族・親族および村落の構造
- (4) マライ人社会の社会政治構造
- (5) マライ人村落と都市の関係
- (6) 世界観
- (7) マラヤにおけるマライ人社会の位置

調査期間

棚瀬 襄爾 4カ月(39年6月1日~9月30日)

吉田 光邦 1カ月(39年6月1日~6月30日)

口羽 益生 6カ月(39年7月5日~40年1月10日)

坪内 良博 3カ月(39年7月5日~10月10日)

3. 東南アジア諸国における政治組織と政治過程の比較研究

調査参加者

猪木 正道 京都大学法学部教授

福島 徳寿郎 " "

香西 茂 " 助教授

清永 敬次 " "

園部 逸夫 " "

調査項目

- (1) 東南アジア諸国における政治組織と政治過程の比較研究にかんする一般的問題
- (2) 同じく国際法上の諸問題
- (3) 同じく税制上の諸問題
- (4) 同じく公法上の諸問題

調査期間

43日(39年12月15日~40年1月26日)

4. 1) 東南アジアにおける教育制度ならびに教育構造の比較研究

調査参加者

相良 惟一 京都大学教育学部教授

調査項目

タイ・カンボジャ・マレーシア・インドネシアにおける教育制度と教育構造

調査期間

約4カ月(39年6月1日～9月末日)

2) Satipatthana(念処)による人格形成の研究

調査参加者

佐藤幸治 京都大学教育学部教授

調査項目

Satipatthanaの禅法

調査期間

15日(39年8月16日～8月31日)

5. 北部タイにおける諸言語の調査

調査参加者

西田龍雄 京都大学文学部助教授

三谷恭之 京都大学大学院文学研究科博士課程

桂満希郎 //

(現地参加, チュラロンコーン大学留学中)

調査項目

(1) タイ語チェンマイ方言・ラフ語・アカ語・ラフ語・カレン語等北タイ諸言語の言語構造

(2) これらの諸言語にかんする比較言語学的諸問題

調査期間

6カ月(39年9月1日～40年2月28日)

6. マレーシアにおける華僑の歴史的社会的研究

調査参加者

日比野丈夫 京都大学人文科学研究所助教授

藤原利一郎 京都女子大学教授

中村孝志 天理大学教授

船越昭生 京都大学人文科学研究所助手

調査項目

(1) マレーシア諸都市における華僑社会の実体

(2) 台湾・香港・マカオにおける関係文献の事情

(3) 南ベトナム・タイ・インドネシアにおける華僑とマレーシアのそれとの比較

調査期間

約3カ月(39年12月19日～40年3月中旬)

7. 東南アジア経済における近代化要因の研究

調査参加者

鎌倉昇 京都大学経済学部助教授

調査項目

東南アジア経済における近代化要因

調査期間

約1カ月半(39年7月～8月)

8. 東南アジアにおける仏教教団の実態調査

調査参加者

藤吉慈海 京都大学人文科学研究所助手

調査項目

(1) タイ・ビルマ・カンボジャにおけるテーラバダ仏教の教団とその背景との関係

(2) これらの国の近代化と仏教との関係

調査期間

4カ月(39年11月1日～40年2月28日)

II. 自然科学部門(暫定計画)

1. タイ国における「らい」の実態にかんする調査研究

調査参加者

西占貢 京都大学医学部教授

岡田誠太郎 // 助教授

調査項目

(1) タイ国における未治療「らい」患者の実態

(2) タイ国における「らい」の病型分布

(3) その病理学的特徴

調査期間

3カ月(39年11月10日～40年2月9日)

2. タイ国の結核についての予備調査

調査参加者

寺松孝 京都大学結核研究所助教授

前川暢夫 //

調査項目

臨床医の立場から見たタイ国結核対策の実情

調査期間

1カ月半(39年12月～40年2月)

3. マレーシアおよび南タイの水田土壌にかんする調査

調査参加者

川口桂三郎 京都大学農学部教授

久馬一剛 // 助手

古川久雄 京都大学大学院農学研究科修士課程

- 調 査 項 目
- (1) マレーシアおよび南タイにおける土壌型相互の成因論的異同
- (2) チッ素の肥効発現機構
- 調 査 期 間
- 3 カ月 (40年 1 月中旬～4 月)
4. 東南アジアにおける農業灌漑・排水にかんする調査
- 調査参加者
- 富士岡義一 京都大学農学部教授
- 調 査 項 目
- (1) タイ・カンボジャ・マラヤにおける土地・水資源の現況
- (2) 水利開発および灌排水にかんする問題点
- 調 査 期 間
- 2 カ月 (39年10月中旬～12月中旬)
5. 東南アジアにおける広域水利計画にかんする調査
- 調査参加者
- 南 勲 京都大学農学部助教授
- 調 査 項 目
- (1) タイにおける水利配分法および施設
- (2) タイにおける水理学研究施設
- (3) メナム河の水理特性
- 調 査 期 間
- 12日 (39年 7 月 2 日～7 月13日)
6. タイ国北部地域における地質鉱物の研究
- 調査参加者
- 滝 本 清 京都大学工学部教授
- 吉住永三郎 " "
- 鈴 鹿 恒 茂 " 助教授
- 谷口敬一郎 " "
- 港 種 雄 " 講師
- 調 査 項 目
- (1) チエンマイ周辺の地質構造
- (2) 同じく鉱産物
- 調 査 期 間
- 3 カ月 (39年10月上旬～12月下旬)
7. 東南アジアにおける非鉄金属資源ならびに製錬にかんする調査
- 調査参加者
- 森山徐一郎 京都大学工学部教授
- 調 査 項 目

- (1) タイ・マレーシア・シンガポールにおける錫鉱床
- (2) 同じく製錬の現況

調 査 期 間

12日 (39年10月20日～10月31日)

東南アジア研究センター第2年度 (昭和39年度)
養成計画による海外留学生

1. 福井 捷 朗 京都大学大学院農学研究科博士課程 (植物栄養学専攻)
留 学 先 タイ国カセツェート大学
留学目的 (1) タイ語の修得
(2) 多雨熱帯の水田土壌の研究
留学期間 1 カ年 (39年 5 月29日～40年 5 月28日)
2. 小 林 一 三 京都大学大学院農学研究科博士課程 (農林経済学専攻)
留 学 先 米国コーネル大学
留学目的 (1) インドネシア語の修得
(2) 農業発展理論の研究
留学期間 1 カ年 (39年 6 月25日～40年 6 月24日)
3. 前 田 成 文 京都大学大学院文学研究科修士課程 (社会学専攻)
留 学 先 マレーシア連邦マラヤ大学
留学目的 (1) マライ語の修得
(2) マラヤの社会構造の研究
留学期間 1 カ年 (39年 5 月12日～40年 5 月11日)
4. 桂 満希郎 京都大学大学院文学研究科博士課程 (言語学専攻)
留 学 先 タイ国チュラロンコン大学
留学目的 (1) タイ語の修得
(2) タイ語諸方言および未調査言語の記述
(3) 文献資料の収集
留学期間 1 カ年 (39年 6 月20日～40年 6 月19日)
5. 酒 井 敏 明 京都大学大学院文学研究科博士課程 (人文地理学専攻)
留 学 先 米国エール大学
留学目的 (1) 東南アジアの地理学的研究の基礎訓練
(2) 資料の収集
留学期間 1 カ年 (39年 8 月～40年 7 月)